

# No. 1270

## 海の観閲式

—海上保安庁30周年—

海の守りに当る海上保安庁の観閲式が5月14日、羽田沖の東京湾で行なわれました。式には全国11管区から22隻の巡視船10機の航空機が参加、華やかなパレードを繰り広げました。この日の観閲官、福永運輸大臣、藺村海上保安庁長官が観閲船「宗谷」の甲板から、次々に観閲。空からは航空機が観閲飛行。つづいてタンカーが座礁し、多量の油が流出したという想定で行なわれた流出油防除演習。日頃の訓練の成果が披露されます。海上保安庁自慢の特殊救難隊の人命救助演習。実践さながらの演習に観客も手に汗を握ります。近代技術の結集といわれる「たかとう」「ひりゅう」「おとわ」3隻の消防船による消火演習。海上保安庁ができて30年。世界は200海里時代を迎えた。尖閣列島事件など日本近海の緊張が深まるなか、海上保安庁の活躍が期待されます。

## 小鳥の来る学校

愛知・岡崎

愛知県、岡崎市の山間部、この山あいのふところに抱かれた常磐東小学校。児童数55人のこの小さな小学校に3年ほど前から小鳥が訪れている。

子供たちが校舎の裏手にエサ台をつくり、給食の残りのパンくずなどを置いたところ小鳥が来る様になったという。今までにカケス、シロハラ、ウグイスなど5種類が来たことを確認しているエサの当番をするのは3年生、4年生の子供たち18人。給食がすむとみんなが残したパンくずやマーガリンなどを捨てないで集める。そしてその日の当番がエサ台にはこび、小鳥が食べやすいように小さくちぎっておく。今日はヒヨドリがやってきた。さっそく画よう紙、などを持ち出して思い思いの観察がはじまります。今までの観察で昆虫しか食べないと云われていたウグイスがパンやマーガリンを食べることを発見した。

5年生、6年生の担当は小鳥の巣箱を作ること。はじめてノコギリを持った子供もいるなどなれない巣箱づくり、それでも皆んな一生けんめい。5月10日からの愛鳥週間には学校の近くの山林に巣箱を取りつけにでかけました。小鳥と自然を愛する心を持った山あいの子供たち。小鳥と子供たちの交流はいつまでも続くことでしょう。